

高等学校における シラバス活用のポイント

- 効果的な活用をめざして -

栃木県総合教育センター
平成16年3月

ま え が き

平成15年11月に、当センターでは、シラバス作成と学習指導改善の参考資料として、「高等学校におけるシラバス作成のポイント」を発行しました。その続編として、このほど、研究協力校における実践研究の成果と課題を踏まえ、シラバスの活用を推進する具体的な方策をまとめました。また、平成15年11月の参考資料で紹介できなかった教科・科目や新たに内容及び形式を工夫した事例を示しました。

現在、各学校では、基礎・基本の徹底を図るとともに、生徒の主体的・自律的な学習を推進して、これまで以上に、生徒一人一人の能力を十分に伸ばすことをめざした教育を展開しようとしています。シラバスの導入は、学力向上に向けた取組を推進する重要な手だてとして期待が高まっています。シラバスの作成及び活用のねらいを明確にして、実践にあたることは、各教科の授業の質的な向上につながるとともに、保護者や地域の人々が学校の教育目標や教育計画などを一層理解するようになり、学校の説明責任を果たしたり、協力を得るための基盤づくりとなったりします。

このように、シラバスの果たす役割に対する期待がある一方、生徒の利用を促したり、内容及び形式の改善を進めたりする上で、いくつかの課題が指摘されています。それぞれの教科・科目などの担当者が、試行錯誤しながら主体的に課題の解決に向けて努力していくことが必要ですが、学習指導の全体計画や実行計画についてもシラバスに示すなど、学校経営の立場からシラバスを積極的に活用しようとする具体的な取組を推進していくことが大切です。これらの目的を達成するために、多くの事例や具体的な活用の考え方をすることも重要です。本資料が各学校でのシラバスの作成及び活用の推進の一助となることを望みます。

平成16年3月

栃木県総合教育センター所長

豊田敏盟

目 次

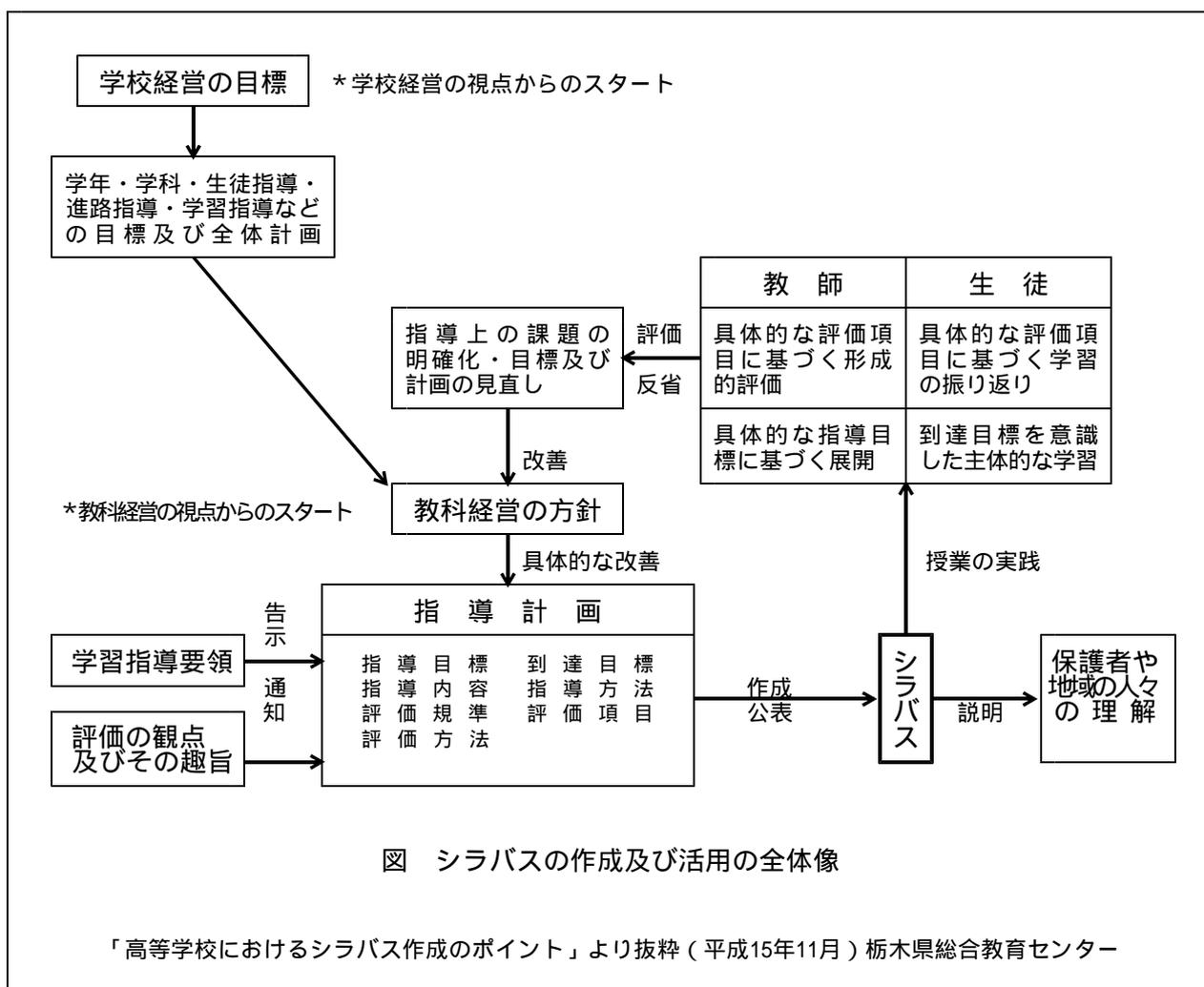
1	はじめに	1
2	シラバスを効果的に活用するための方策	2
3	事例 各教科・科目等のシラバス	
	シラバスの事例の概要と特徴	12
	事例 理科	13
	・履修ガイド《理科》	
	・講座案内《理科》理科基礎、理科総合A	
	・学習計画書「理科基礎」	
	事例 芸術科	16
	・履修ガイド《芸術科》	
	・芸術科「音楽」シラバス	
	・芸術科「美術」シラバス	
	・芸術科「書道」シラバス	
	事例 学校設定科目「科学技術A」	23
	・学校設定科目「科学技術A」シラバス	
	事例 総合的な学習の時間「地域研究」	26
	・総合的な学習の時間「地域研究」シラバス	

1 はじめに

平成15年11月に当センターが作成した「高等学校におけるシラバス作成のポイント」の中で、シラバスの果たす主な役割として次の三つを挙げました。

- (1) 生徒に対して、学習の到達目標を意識させ、主体的な学習を促す。
- (2) 指導目標（あるいは評価規準）評価の観点、評価方法を明確化し、学習指導の工夫改善に生かす。
- (3) 保護者、地域の人々に対して説明責任を果たし、学校への信頼を高める。

実際にシラバスを導入した学校からは、指導のねらいや方法、評価、授業の進度、教材の扱いについて、今までよりも教師間で共通理解が得られるようになったというような効果が報告されています。しかし、その一方で、実際には生徒はあまり活用していないという声も聞かれます。こうした状況を改善するためには、次の図のように、学校経営と教科経営の両方の視点から、あらためてシラバスの効果的な活用を促すことが大切です。



2 シラバスを効果的に活用するための方策

活用の方策 1

生徒に学習の到達目標を意識させ、主体的な学習を促すためには、シラバスを自主学習の計画や学習の自己評価のための資料と関連付けることが大切です。

シラバスを配付して説明するだけでは、生徒が計画的に学習に取り組むことにはつながりません。シラバスを生徒自身が有効に活用できるようにするためには、シラバスの記載内容が学ぶこととどのように関連しているか、具体的な活用方法を示す必要があります。また、教科担任だけでなく、ホームルーム担任もシラバスを配付するねらいや活用方法について共通理解を図る必要があります。

次の図は、生徒に主体的な学習を促すための各種資料とその役割を模式的に表したものです。

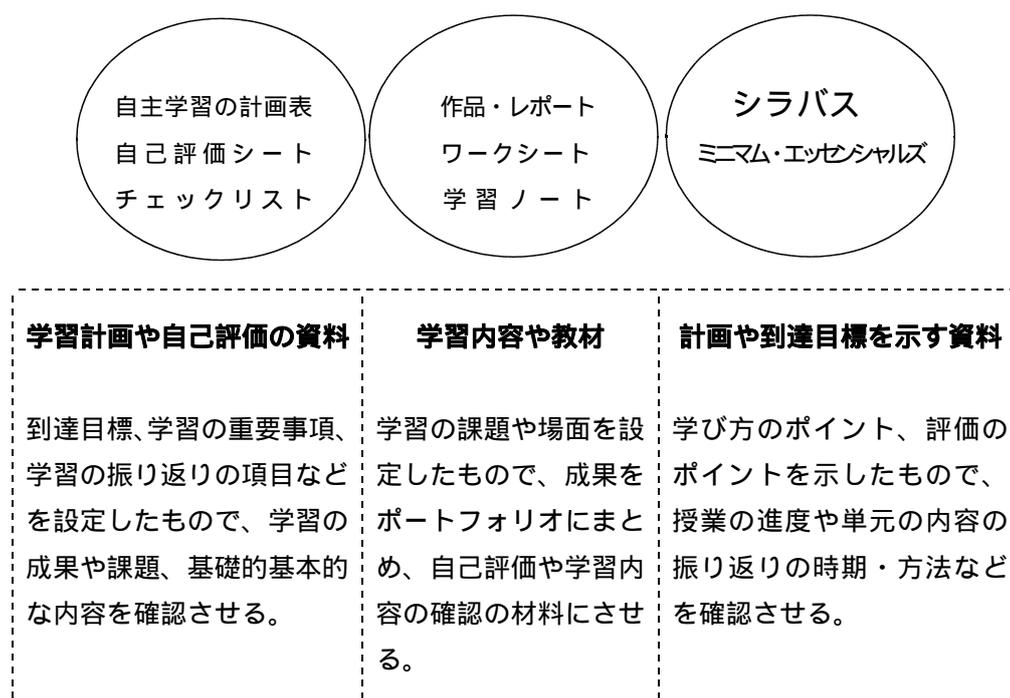


図 生徒に対して主体的な学習を促すための各種資料とその役割

[活用例 1] 学習計画の立案での活用 ホームルーム担任の活用例

生徒がシラバスを十分に活用しなかった理由として、活用方法がわからないということや、必要性を感じないという声が聞かれます。このことから、シラバスの活用に関するガイダンスの方法を工夫する必要があることがうかがえます。

ホームルーム活動においては、「学ぶことの意義の理解」、「主体的な学習態度の確立」、「教科・科目の適切な選択」などのテーマと関連付けて、シラバスを活用することが考えられます。また、学習や進路に関する面談など個別の支援の場面でも、シラバスを示しながら対話を進めるといった利用法も想定できます。このように考えると、シラバスの活用についてホームルーム担任の果たす役割は大きいと言えます。

以下に、生徒にシラバスを参考にして自主学習の計画を作成させるためのワークシートの例を示しました。

学び方ワークシート（自主学習の計画）

高校に入学して、まず、1学期にがんばってみたいと思う教科・科目を3つ選んで、シラバスを参考にしながら、「学習のチャレンジ！ベスト3」を作成しましょう。

（選ぶポイント）

- ・特技や得意分野を伸ばすためにチャレンジ
- ・苦手な分野の克服にチャレンジ
- ・将来の進路実現に向けてチャレンジ
- ・新しい科目にチャレンジ

（シラバスの活用の仕方）

- ・役立つと考えたシラバスの記載事項に、赤ペンで下線~~~~~を引いたり、チェックしたりする。
- ・特に役立つと考えた事項を参考に、「学び方のポイント・努力目標」の欄に記入する。

（記入例）

A・Bの欄に記入する

順位	教科・科目名 達成度チェック	A チャレンジしたいこと 課題・動機	B 学び方のポイント 努力目標・方法
1	オーラルコミュニケーション ----- 5月 7月	中学校の時、外国人の講師の先生との会話が苦手だったので、積極的に話せるようにしたい。	・学習ノートを使って授業の前日に予習、週末に復習。 ・CDを使って、毎日声に出して学ぶ！
2	英語 ----- 5月 7月	英文を読んだり、書いたりすることは得意なので、さらに力をつけたい。	・シラバスに示されている「学習課題」「ワークブックの範囲」「学習のアドバイス」を参考に、授業の前日に予習、週末に復習。 英語 + O C の家庭学習時間の目標は平日1.5時間、休日2時間
3	数学 + A ----- 5月 7月	中学校では、2年生の時学んだ「場合の数」「確率」が苦手であったので、克服したい。大学に進学して経済や企業経営などについて学びたいので、数学の力をつけることは必要であるため。	・シラバスには、1学期の期末テスト終了後（7月）から「場合の数」「確率」の単元の授業が行われると示されていることから、自主学習のガイド役である問題集の活用慣れ、期末テストまでに予習、復習のスタイルを確立しておく。 数学 + A の家庭学習時間の目標は平日1時間、休日2時間。7月の期末テスト前から30分延長。

シラバスを参考にする

(指導のポイント)

- ・達成度チェック(5月 7月)の欄に、記号でチェックする。
例) A: ほぼ達成 B: 達成が不十分 C: 計画の見直しが必要
- ・興味をもっている科目を中心に挙げさせる。
- ・「チャレンジしたいこと」、「学び方のポイント」の欄に、具体的な努力目標や目標達成に向けたプロセスなどを、シラバスの記載内容を参考にして記入させる。
- ・定期テストの前後に、シラバスを参考にさせて記入内容を振り返らせる。
- ・このシートとシラバスをもとに目標の達成状況を把握させ、個人面談の参考資料とする。

英語科「OC」シラバス(抜粋)

- 3 主な教材の紹介 教科書準拠の学習ノート(CD付)
- 4 学び方についてのアドバイス
予習 授業 復習のサイクルを確立しよう。
具体的な方法については担当者の指示や入学時に配付した「学び方の手引き」に従ってください。 **他の資料との関連を明示**
- (1) 家庭学習
- ・予習: 単語や熟語を調べておく。(前もってCDを聞いてもよい。)
 - ・復習: 課題をすませ、学習ノートを使ってCDを何度も聞く。
重要な単語や表現は書けるようにする。

英語科「英語」シラバス(抜粋)

月	主な学習項目	学習課題	ワークブック	学習のアドバイス
4	Lesson1 My Friend	友人紹介の文章を通して、これからの高校生活について考える。 基本文型(三つ) 基本時制(現在・過去・未来・進行形) 「あいさつ」の表現	3 文の型(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>Weekly Testはファイルにまとめ、定期テスト前の確認に活用しよう。</u> ・<u>教科書やワークブックの例文を中心に、 、 、 に取り組もう。</u>

数学科「数学 + A」シラバス(抜粋)

月	学習内容	問題集	学習のアドバイス
7	数学A 第1章 <u>場合の数と確率</u> 第1節 集合と要素の個数 1 集合 2 集合の要素の個数	pp.72-77 1. 2. 3. 4. 5. 6. 10.11. 12.13.	<ul style="list-style-type: none"> ・便箋などを利用して、包含関係をしっかり確認しましょう。 ・<u>期末テスト後のため、やや学習意欲が低下しがちです。また、苦手と感じる人が増える内容です。予習・復習のペースを崩さないようにしましょう。</u>

* 栃木県立宇都宮清陵高等学校シラバス(平成16年度用)より一部引用。

[活用例 2] 学習の予習・復習での活用

シラバスを学習の予習・復習に活用するためには、シラバスの中に学習内容と関連する問題集の重要問題などを示したり、学習を進める上でのアドバイスを記したりしておくことで自己学習を促すのに効果的です。また、課題テストや単元テストの計画も合わせて記しておくことも計画的な学習を促すことにつながります。

以下の例は、シラバスの中に関連する重要問題の番号、学習のアドバイス、公式・重要事項などを記載したものです。また、シラバスのスペースには限りがあるので、自己評価シートなどをシラバスと関連させて活用させることも効果的と考えられます。

数学科「数学 + A」シラバス（抜粋）

月	学習内容	問題集	学習のアドバイス	備考
1	第2節 正弦定理と余弦定理	pp.55-60	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正弦定理・余弦定理をしっかり覚えましょう。 ・ 問題を解くときは、必ず図をかいて、求める辺や角を確認しましょう。 ・ 空間の問題は難しいですが、図をかいてよくイメージしながら考えることが大切です。 	1/15
	4 正弦定理	198,199,200,		課題テスト
	5 余弦定理	201,202,203,		1/26
	6 正弦定理・余弦定理の応用	204,205,207		単元テスト
	第3節 図形の計量	pp.61-69		
	7 三角形の面積	219,220,221,		
	8 相似な図形の面積比・体積比	228,229,230,		2/2
	9 空間図形の計量	231,237,238,		単元テスト
				239,240
途中省略				
【公式・重要事項】		正弦定理 $\frac{a}{\sin A} = \frac{b}{\sin B} = \frac{c}{\sin C} = 2R$ 余弦定理 $a^2 = b^2 + c^2 - 2bc \cos A, \quad b^2 = a^2 + c^2 - 2ac \cos B$ $c^2 = a^2 + b^2 - 2ab \cos C$		
三角比の相互関係 $\tan \theta = \frac{\sin \theta}{\cos \theta}, \quad \sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$ $1 + \tan^2 \theta = \frac{1}{\cos^2 \theta}$		以下省略		

* 栃木県立宇都宮清陵高等学校シラバス（平成16年度用）より一部引用。

自己評価シート活用（シラバスと自己評価シートの関連）

さらにきめ細かな学習の振り返りや発展学習を促すためには、シラバスと関連させた自己評価シートを活用すると効果的です。

【自己評価シート作成のポイント】

学習の振り返りをしやすいように、授業で扱った学習の課題に沿って作成する。チェック欄には、授業で扱った考え方や既習事項など、認知面の項目を設定する。授業がよく理解できなかったときに、どこを確認すればよいかを項目ごとに示す。学習内容の定着を図るために、練習する必要がある類題を示す。関心・意欲・態度を育成するために、発展課題や予習課題を示す。

自己評価シートの例

授業で扱った課題を
時系列に示す

授業で扱った考え方や知識など、生
徒に身に付けてほしい具体的な項目

できなかったと
きの復習箇所

学習課題	課題解決に必要な考え方や知識など	できなかったときは ここを確認
<p>【課題 1】 「直角三角形の斜辺の長さ」(中学校復習) AB=400m、AC=200m、 A=90°のときのBC の長さを求める。</p> <p>【課題 2】 「鋭角三角形の1辺の長 さをいろいろな解法で解 こう」(既習事項の活用) AB=400m、AC=200m A=60°のときのBC の長さを求める。</p>	<p>直角三角形の斜辺は他の2辺が分 かれば三平方の定理を使って求めら れることがわかる。 → BCを三平方の定理を使って求める ことができる。</p> <p>[解法 1] → Cから垂線をおろして直角三角形 を作れば三平方の定理が使えること がわかる。 BCを三平方の定理を使って求める ことができる。</p> <p>[解法 2] → ABとACの辺の比とA=60°とい うことから、ABCはC=90°の直 角三角形であることがわかる。 BCを三角形の辺の比を使って求め ることができる。</p>	<p>中学校第3学年 「三平方の定理」 $a^2 + b^2 = c^2$</p> <p>教科書p.118</p> <p>教科書p.98 辺の比が1:2:3の 直角三角形</p>
~~~~~ 途中省略 ~~~~~		
<p>【課題 3】 「解法を一般化して余弦 定理を導く」 (本時の中心課題) AB=c、AC=b、A=Aを 使ってBC=aを表す。</p>	<p>課題2の解法1を一般化できる。 $\sin^2 A + \cos^2 A = 1$を使って式の整理がで きる。 → 余弦定理を用いて、2辺とその間 の角から他の1辺を求められること がわかる。 余弦定理はa、b、cについて3通 りに表せることがわかる。</p>	<p>教科書p.118 余弦定理の証明 例1 参考書p.140 余弦定理</p>
<p>本日の学習事項の 定着のために</p>	<p>教科書p.54の練習1、練習2 問題集p.72の67~69、p.73のA問題 ----- 問題集p.73のB問題、参考書p.140の187、188(できた人はチ ャレンジ)</p>	
<p>次時への予習課題</p>	<p>教科書p.119の例題2 参考書p.140の基本例題66</p>	

予習課題

学習の定着を図るために、  
練習する必要がある類題や  
発展課題

## 活用の方策 2

シラバスの作成、活用にあたっては、単元の学習目標や学習のねらい、自校の生徒に必ず身に付けさせたい知識や技能、資質や能力を明確にして、具体的な項目を設定しておくことが大切です。

次の学習単元の例のように、シラバスに学習のねらいを記載する事例が多くみられますが、学習のねらいが単元レベルの目標にとどまり、しかも漠然とした記述になってしまうと、生徒には具体的な学習内容が分かりにくくなってしまうことが多いようです。

### シラバスに示す単元の学習のねらい（例：古典）

学習単元名	単元の学習のねらい
随筆 「中納言殿参り給ひて」 （『枕草子』）	語句の意味、用法、敬語法等を理解し、本文の内容を読み取ります。また、本文に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わい、古文に親しみます。

このような課題に対する方策の一つとして、生徒が最低限身に付けるべき基礎・基本（ミニマム・エッセンシャルズ）を明示することが考えられます。これは、学習指導計画やシラバスに到達目標を設定する際にも活用できます。また、自己評価欄やチェックリストを設けると、生徒に学習の振り返りを促すこともできます。

### ミニマム・エッセンシャルズとは

生徒が最低限身に付けるべき基礎・基本である。

[作成のねらい]

当該高校の生徒として最低限身に付けておくべき基礎学力を明示して、当該高校の生徒の学力保証につなげる。

学習内容と目標の重点化により、生徒にとって学習の指針となる。

学習内容を重点化して示すことにより、主体的な学習を導き、基礎学力を身に付けさせる。

自己評価欄やチェックリストを設けることで、生徒に学習の振り返りを促す。

計画的な学習指導の指針となり、指導方法や評価方法の改善につながる。

複数の指導者間で、学校としての指導事項の共通理解が図られる。

### シラバスに示す単元の学習のねらいとミニマム・エッセンシャルズ（例：古典）

学習単元	単元のミニマム・エッセンシャルズ
随筆 「中納言殿参り給ひて」 （『枕草子』）	敬語法の理解 (1) 尊敬語(為手尊敬)・謙譲語(受け手尊敬)・丁寧語(聞き手尊敬)を理解する。 (2) 二重尊敬(最高敬語)、二方面への敬語を理解する。 (3) 本文中の敬語表現を全て抜き出し、敬語の種類と、誰から誰に対する敬意を表すかを指摘する。 (4) 登場人物の関係を考えながら、語句や敬語表現に注意して、書き手の考えなどをとらえている。 (5) 本文に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。

ミニマム・エッセンシャルズに対応する自己評価（例：古典）

自己評価 敬語法の理解

年 組 番 氏名	A B C D
1 「給ふ」などの尊敬語が理解できた。	A B C D
2 「奉る」などの謙譲語が理解できた。	A B C D
3 「侍り」などの丁寧語が理解できた。	A B C D
4 「～せ給ふ」などの二重尊敬が理解できた。	A B C D
5 「参り給ふ」などの二方面への敬語が理解できた。	A B C D
6 登場人物の関係が理解できた。	A B C D
7 人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができた。	A B C D
本時の感想	

A あてはまる B だいたいあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない

### 活用の方策 3

学習指導の全体計画や実行計画についてもシラバスを用いて保護者や地域の方々にわかりやすく示すことができます。

学力向上をめざした取組の全体計画やその進捗状況などに関する情報については、保護者や地域の方々の関心も高く、これらについて説明責任を果たすことは学校経営上の重要な課題の一つとなっています。このための方策の一つとして、教育計画や学校経営計画などに記載されている内容のうち、学習指導に関わる部分をシラバスとしてまとめて明示することが考えられます。これは学力向上に関する計画（Plan）を保護者や地域の方々に具体的に説明することにとどまらず、実践（Do）、評価（Check）、さらに問題点の見直し（Action）に至る、いわゆるマネジメントサイクルに実効性を持たせるための有効な手だての一つといえます。

#### 学習指導のシラバス

次のページに示した「『学習指導』シラバス」は、文部科学省の学力向上フロンティアハイスクール事業（平成14年度から実施）の構想を参考にして作成したモデルプランです。これは、学力向上をめざした学習指導の全体計画を、保護者、中学校や地域の方々に説明するために役立つと考えられますが、各教科・科目のシラバスの位置付けや役割を明確にして、校内の指導体制を充実させることにもつながるものです。

#### シラバスに関する参考資料

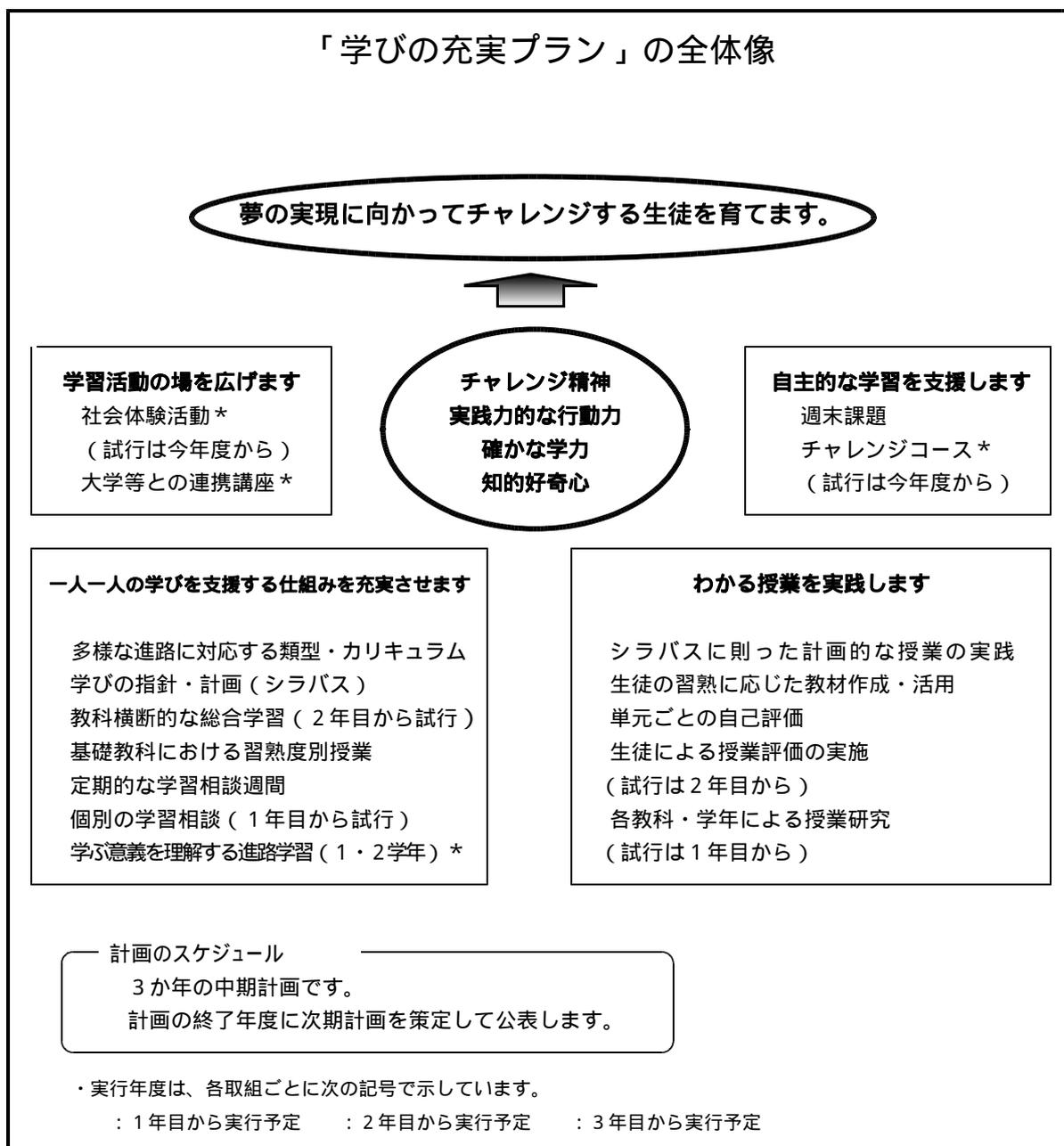
埼玉県総合教育センター シラバス：高等学校：学校経営  
教科・科目、総合的な学習の時間だけでなく、学校経営や学年経営のシラバスも公開しています。

<http://www.center.spec.ed.jp/c/c.html>

広島県内高等学校リンク集  
グランドデザイン、学校経営計画書、シラバスなどをwebページの資料として公開している高等学校があります。

<http://www.pref.hiroshima.jp/kyouiku/hotline/14map/koukoumap/index.html>

# 「学習指導」シラバス



* 次ページに詳しい実行プランを示しています。

## 学びの充実のための6つの実行プラン

### プラン1 学力向上に向けた校内体制の整備

多様な進路に対応する類型（コース）とカリキュラム  
全教科、学年、学習指導（本資料）生徒指導、進路指導、特別活動のシラバスを整備  
学力向上を推進する校内組織の設置と実行のための手順の明確化  
・ 教員および学外者から構成される学力向上プロジェクト  
・ PDCAサイクルに基づくプランの全体の企画、推進、評価

### プラン2 生徒の学習意欲・学力実態などの把握

学力の現状の多面的な把握  
・ 学習状況調査（学ぶ意義の理解、学習意欲、学習時間、学習習慣、進路意識）  
・ 1、2年の実力テストの改善（シラバス・到達目標をもとに作成・実施）

### プラン3 シラバスの作成・具体的な到達目標の設定

シラバスによる授業の進度の明確化と自己評価シートの活用  
・ 単元ごとの学習内容の確認と学力の定着  
到達目標の設定と到達までのプロセスの明確化  
・ 教科・科目のミニマムエッセンシャルズの設定

### プラン4 指導方法の工夫・改善

一人一人の学力を最大限伸ばすための指導内容・指導方法の工夫改善  
・ 習熟度別指導（英語・数学）  
・ 個別の学習相談（発展的な学習、補充的な学習）  
・ 各教科・学年による授業研究・教材開発（年間2回の公開授業）

### プラン5 総合的な学習の時間の充実

学ぶ意義を理解する進路学習  
自己の生き方を探求する進路学習プログラムの実践（1・2年次）  
・ 自己探求ノートを利用した進路学習の展開  
例：自己理解と職業・産業・社会の理解  
例：社会体験活動を通じたライフプランの作成  
・ 3年間の学びの充実プラン（個別の学習計画表）の作成と活用  
例：学ぶ意義の理解、科目選択、類型選択  
教科横断的な総合学習  
進路選択に応じた課題追究・探究学習の展開（3年次）  
学習の系列 人間と文化・芸術、人間と社会、人間とコミュニケーション、  
人間と科学・技術、人間と自然・環境  
* 5つの系列に分かれ、グループまたは個人でテーマを設定する

### プラン6 学習活動の場を広げる取組の推進

大学・専修学校との連携の推進  
・ 大学・専修学校の教員による土曜日講座の開催（本校主催）  
・ 大学等の公開講座への参加の推進（生徒の自主参加）  
・ 大学等の科目等履修、学校外の学修の単位認定（生徒の自主参加）  
自主的な学習の推進  
・ チャレンジコース（朝、放課後、家庭での自主的学習）  
例：英検2級・3級コース、年間50冊読書コース、職業資格取得コース、  
体づくり運動コース、社会体験活動コース、サイエンスコースなど各自が設定